

ここがポイント！授業づくり

京都府丹後教育局
学校教育担当
令和2年10月発行
授業力UP研修5

この資料は、教職経験1～6年目（ステージ1）の先生方を主な対象として作成しています。他のステージの先生方にとっても、御自身の日々の授業実践を振り返っていただくきっかけとなれば幸いです。

今回のテーマ 「主体的な学びの視点からの授業改善」

「主体的・対話的で深い学び」とは、今回の学習指導要領において、授業改善の視点として示された言葉です。

今回はその中でも「主体的な学び」に焦点を当て、児童生徒が主体的な学びができる授業づくりについて考えていきましょう。

【「主体的な学び」の視点】

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。

文部科学省の示している「『主体的な学び』の視点」の文章の主語は児童生徒です。児童生徒がこのような姿になるようにするには、どのような授業をしたらよいのかと考えることが重要です。



見通しをもって粘り強く取り組むために…

見通しをもって粘り強く取り組むためには目標が必要です。何に向かって頑張るのかということです。授業では「めあて」ということになります。「めあて」は児童生徒が自分自身が何に向かって頑張る、どういうゴールを目指せばよいのかが分かるものでなければなりません。



「めあて」の言葉を吟味しましょう。

「めあて」は指導書にかかれたそのままを示せばよいというものではありません。実態を踏まえて、児童生徒が自分の「めあて」として捉えられる言葉を選ぶ必要があります。

「めあて」を提示するタイミングを工夫しましょう。

児童生徒の課題意識が高まっていないのに「めあて」を提示しても、与えられた課題にしかなりません。児童生徒の課題意識が高まってから「めあて」を提示することが大切です。

「めあて」の提示の仕方を工夫しましょう。

教師が一方的に「めあて」を示すのではなく、児童生徒とのやり取りの中で「めあて」を理解させたり、自覚させたりしましょう。児童生徒と一緒に「めあて」をつくるのもよい方法です。

自己の学習活動を振り返って次につなげるために…

自分が取り組んできたことを振り返ることで「次はこうしよう」「こんなことがしたい」という気持ちが生まれます。授業では「振り返り」ということにはなりますが、感想や反省では次につながるものとはなりません。学んだ内容、学び方、もっと知りたいこと等、次へつながる「振り返り」を書かせる工夫が必要です。

「めあて」に対する「振り返り」をさせましょう。

「めあて」に向かって取り組んできたのですから、「めあて」に対する「振り返り」をする必要があります。感想になっている児童生徒には「めあて」に立ち戻るよう助言をしましょう。

学んだ内容だけでなく、学び方の「振り返り」もさせましょう。

「〇〇が分かった」だけでなく「どうしたら分かったか」まで振り返らせると、それは今後の学習に生かせるものとなります。友達の考えを聞いて分かったという場合には、そのことも振り返らせましょう。

「振り返り」を肯定的に評価し、価値付けをしましょう。

「振り返り」にコメントを返したり交流したりして、次へつながる「振り返り」とはどのようなものかを児童生徒にイメージさせましょう。「振り返り」の質が高まっていきます。